

せいけん
詩集

第百四十篇

作：近藤せいけん

「心象風景」 しんしやうふうけい

心の中に浮かぶ 風景ふうけい

ただ ぼんやりと 眺めているなが

次から次に現れては消えるあらわ

表に出すべきか 文字にするべきかおもて

心のなかの 物語ものがたり

表に出ると 詩 小説 ファンタジーがし しょうせう

生まれる

人はみな 心の風景をもっているふうけい

毎日 毎時間 毎分 毎秒びじょう

心の旅路をたどってたび

いろんな道を 歩んでいる

それぞれの 心象風景しんしやうふうけい

どんな形に現れるか それとも消すか

夢で終わらすかゆめ

心のみ 知っている

